

要約 京都の経営経済動向調査結果 (2017. 12. 26)

～2017年10～12月期実績と2018年1～3月期及び4～6月期予想～

京 都 商 工 会 議 所
担当：中小企業経営支援センター
電話 (075) 2 1 2-6 4 6 7

国内景気に明るさ、景気の回復傾向続く

～自社業況は消費増税前の水準まで回復するが、先行きに慎重な姿勢～

概 要

今期の国内景気BSI値は18.1(前期実績5.3)と大幅に上昇した。年末の需要期を迎える料理・飲食、旅館・ホテル、小売業など全ての業種で上昇し、前回予想値(10.9)よりも、上昇幅が拡大する結果となった。今後の2018年1～3月期は6.0と上昇幅は縮小するものの、堅調な個人消費に下支えられた料理・飲食などが引き続き景気を牽引し、プラスで推移する見込みとなっている。続く4～6月期は7.6と引き続きプラスで推移し、景気の回復傾向が続くと予想する。

今期の自社業況BSI値は12.8(前期実績0.2)と大幅に上昇した。国内景気同様、年末の需要期を迎える料理・飲食のほか、建築材料の需要増を追い風に鉄鋼が業況を牽引するなど、ほぼ全ての業種で業況がプラスで推移した。また、経常利益や製造業の受注残が増加するなどプラスの指標も出ており、自社業況は、2014年の消費増税前の水準にまで改善した。今後の2018年1～3月期は▲2.3と年末の需要期の反動から下降するものの、春の需要期を迎える4～6月期は3.7と再び上昇する見込みとなっている。しかしながら、人手不足、原材料価格の上昇等への懸念から、先行きについては、全体としては、慎重な見方が広がっている。

(注) 11月中旬から下旬にかけて同調査を実施し、573社中403社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業)。また10～12月期のBSI値は、2017年7～9月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

I 国内景気動向

2017年10～12月期は、「上昇」とした企業40.2%(前期実績19.3%)、「下降」とした企業4.0%(前期実績8.8%)、BSI値は前回予想値10.9を大きく上回り、18.1(前期実績5.3)と上昇した。今後の2018年1～3月期のBSI値は6.0と上昇幅は縮小する見込みとなっている。続く4～6月期も7.6と引き続きの上昇を予想する。

II 企業経営動向

自社業況(総合判断) 2017年10～12月期は、「上昇」とした企業40.5%(前期実績25.4%)、「下降」とした企業14.9%(前期実績25.0%)、BSI値12.8(前期実績0.2)と大きく上昇した。今後の2018年1～3月期のBSI値は▲2.3と下降するものの、続く4～6月期は3.7と再び上昇する見込みとなっている。

1. 生産・売上高、工事施工高 2017年10～12月期は、「増加」43.2%(前期実績27.5%)、「減少」14.3%(前期実績25.2%)、BSI値14.5(前期実績1.2)と大きく増加した。今後の2018年1～3月期のBSI値は▲5.5と減少するものの、続く4～6月期は2.3と再びプラスに転じる見込みとなっている。

2. 製・商品・サービス・請負価格 2017年10～12月期の製品価格、商品価格、サービス価格、建設業請負価格を総合的に見ると、「上昇」13.1%(前期実績7.7%)、「下降」4.0%(前期

実績7.5%)、BSI値4.6(前期実績0.1)と上昇した。今後の2018年1～3月期のBSI値は0.8とほぼ横ばいで推移するものの、続く4～6月期は2.7と再び上昇する見込みとなっている。

3. 経常利益 2017年10～12月期は、「増加」35.3%(前期実績19.9%)、「減少」19.5%(前期実績28.3%)、BSI値7.9(前期実績▲4.2)と増加した。今後の2018年1～3月期のBSI値は▲7.8と減少に転じるが、続く4～6月期は0.9とほぼ横ばいで推移する見込みとなっている。

4. 所定外労働時間 2017年10～12月期は、「増加」31.4%(前期実績14.9%)、「減少」9.0%(前期実績18.9%)、BSI値11.2(前期実績▲2.0)と増加した。今後の2018年1～3月期のBSI値は▲1.0と減少するが、続く4～6月期は0.7とほぼ横ばいで推移する見込みとなっている。

5. 製・商品在庫 2017年10～12月期は、「適正」とする企業が78.1%(前期実績76.8%)、「過剰」とする企業が15.2%(前期実績18.3%)、「不足」とする企業が6.7%(前期実績4.9%)、BSI値4.3(前期実績6.7)と概ね適正水準で推移したが、引き続き一部に過剰感が見られている。今後の2018年1～3月期は「適正」が86.6%、続く4～6月期は88.0%と、徐々に改善する見込みとなっている。

6. 資金繰り 2017年10～12月期は、「改善」とする企業が11.6%(前期実績7.2%)、「悪化」とする企業が8.8%(前期実績12.9%)、BSI値1.4(前期実績▲2.9)と改善した。今後の2018年1～3月期のBSI値は▲0.6とほぼ横ばいで推移し、続く4～6月期は1.6と改善する見込みとなっている。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

第1位は「求人難」(37.5%)、第2位は「受注・売上不振」(36.2%)となり、前回の第1位と第2位が入れ替わる結果となった。第3位は「技能労働者不足」(22.6%)、第4位は「過当競争」(20.1%)となり、前回と同順位であった。第5位は「原材(燃)料高」(18.4%)、第6位は「人件費負担増大」(16.1%)となり、前回の第5位と第6位が入れ替わる結果となった。

B. S. I. 値の総括表		実 績		予 想	
		2017年7～9月期	2017年10～12月期	2018年1～3月期	2018年4～6月期
国内景気動向		5.3	18.1	6.0	7.6
京都企業の経営動向	自社業況(総合判断)	0.2	12.8	▲ 2.3	3.7
	1. 生産・売上高、工事施工高	1.2	14.5	▲ 5.5	2.3
	2. 製・商品・サービス・請負価格	0.1	4.6	0.8	2.7
	3. 経常利益	▲ 4.2	7.9	▲ 7.8	0.9
	4. 所定外労働時間	▲ 2.0	11.2	▲ 1.0	0.7
	5. 製・商品在庫	6.7	4.3	3.4	3.4
	6. 資金繰り	▲ 2.9	1.4	▲ 0.6	1.6

※ B. S. I. 値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) × $\frac{1}{2}$